

第4回 整備事業者アワード2025



第4回 整備事業者
AWARD 2025

主催：日刊自動車新聞社

後援

国土交通省

一般社団法人日本自動車整備振興会連合会・日本自動車整備商工組合連合会

一般社団法人日本自動車機械器具工業会

一般社団法人日本自動車機械工具協会

日本自動車車体整備協同組合連合会

全国自動車電装品整備商工組合連合会

整備事業者アワード開催の趣旨

100年に一度の大変革期を迎えたといわれる自動車業界は、電動化、自動運転化、コネクテッド化、シェアリングの加速など、今後市場環境の大幅な変化が予想されます。社会環境も少子高齢化が進み、高齢者人口の増加、年少人口の減少とともに、生産年齢人口は減少傾向にあります。こうした状況は将来の保有台数減にもつながりかねない可能性があり、さまざまな対策の必要性に迫られております。また、特定整備制度、OBD検査の導入を始め、電動化技術など進化する新技術への対応が急がれます。市場環境の変化を前提に、需要動向変化に応じた先を見据えた事業展開が生き残りに必須となります。

このような市場背景を踏まえ、今後の整備事業者の“手本、となりうる取り組み事例に焦点を当てる表彰制度「整備事業者アワード」を2021年に立ち上げました。個人・法人を問わず自動車ユーザーを支える整備業界の将来的な活性化を目指します。

- 事業構造変革による新たな需要の掘り起こしに成功した事例など、この表彰制度では事業規模や数的指標のみでは測れない“手本、となる各事業者の取り組みを重視し、評価します。
- 業界の皆様のご協力のもと、成功事例の発掘・共有を今後継続的に進め、折々の市場動向に応じた業界指針を示せるような表彰制度に成長させるのが狙いです。
- 昨年に続く第4回目のアワード開催に向け、自動車整備業界の皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

整備事業者アワードの概要

表彰対象は指定工場・認証工場(部分認証を含む)・特定整備認証工場

①

- * 大型車整備、自家整備、車体整備工場・電装整備工場等も対象とする
- * メーカー系ディーラーは除く(副代理店は可) ※国土交通省の行政処分(是正命令措置など)期間中の事業者は応募不可

②

整備事業者の手本となる、市場環境変化に対応した取り組みを表彰する。
事業規模や数的指標にとらわれず、取り組みの切り口の斬新さや継続性を重視する。

③

表彰分野は、「イノベーション領域」「経営改善領域」「社会貢献領域」の3領域に区分し、
応募内容に応じて、各領域で審査委員会がテーマ賞を設定する。
また、3領域全テーマ賞の中から、「日刊自動車新聞社大賞」を選定する。

④

表彰対象事業者は、一般公募(自薦・他薦)、スポンサー企業推薦、日刊自動車新聞社推薦で
ノミネートされた事業者の中から、外部審査委員会による1次審査、2次審査を経て表彰事業者を決定する。

⑤

審査委員チームは、学識者、コンサルティング企業、整備学校関係者、人材育成企業、自動車関連ジャーナリストなどで構成し、公正かつ自動車整備業界を俯瞰できる識者を中心に構成する。

表彰分野の概要

日刊自動車新聞社大賞

【イノベーション領域テーマ賞】

- テーマ例
- 法人ビジネス強化
- デジタルトランスフォーメーション
- 専門性強化
- ユニーク経営
- その他

【経営改善領域テーマ賞】

- テーマ例
- 人材育成
- 顧客リピート業
- 付加価値ビジネス創出
- 業務効率化
- その他

【社会貢献領域テーマ賞】

- テーマ例
- 地域貢献
- 環境対応
- 事業継続計画
- その他

各表彰分野の審査基準

【テーマ賞】 ●イノベーション領域

今後の自動車整備市場の変動（電動化、自動運転化、コネクテッド化など）に備え、

整備事業者として生き残りをかけて新たな取り組みを展開している事例を評価する。

（テーマ例：海外展開、専門性強化、デジタルトランスフォーメーション、法人ビジネス強化、新規参入、ユニーク経営、その他）

●経営改善領域

経営改善に向けた継続的な取り組みで成果を挙げた事例を評価する。

（テーマ例：顧客リピート策、事業承継、人材育成、業務効率化、付加価値ビジネス創出、保険獲得策、経営再建策、その他）

●社会貢献領域

自動車整備事業者の強みである地域密着型経営を進める上で、社会貢献を目指した継続的な取り組みを評価する。

（テーマ例：地域貢献、環境対応、事業継続計画、その他）

【日刊自動車新聞社大賞】

上記テーマ賞受賞事業者の中から、今後の整備業界活性化に寄与する取り組みを大賞に選定する。

選定の際には、他事業者の参考になりやすく、広く整備業界の底上げにつながる影響力の大きい取り組みであるかどうかを重視する。

整備事業者アワードの実施詳細

【主催者】

日刊自動車新聞社

【審査委員体制(敬称略)】

● 審査委員長

須田義大 (東京大学教授)

● 審査委員

廣瀬敏也 (芝浦工業大学教授)

長屋勝利 (株式会社TRY FORCE代表取締役)

山尾百合子 (株式会社メイン名誉会長、創業者)

佐藤康夫 (学校法人小山学園理事、東京工科自動車大学校中野校・世田谷校校長)

泰楽秀一 (日本自動車車体整備協同組合連合会理事)

泉山大 (自動車ジャーナリスト、プロジェクトD代表)

メカドルゆき (日本自動車整備士LAB代表)

【表彰式について】

日時	2025年4月
場所	都内ホテル
内容	第4回整備事業者アワード2025 表彰式・懇親会

【表彰式後の流れ】

2025年 5月末	同アワード 新聞特集発行
2025年 6月～	同アワード受賞事業者紹介新聞連載 (日刊自動車新聞社取材)

【アワード実施スケジュール】

一般公募・スポンサー推薦募集期間	2024年10月1日～2025年1月10日
スポンサー企業様募集期間	2024年10月1日～12月27日
受賞企業による取り組み進捗発表会紙面紹介	2024年12月中旬
事務局書類審査	2025年1月末
審査委員一次審査	2025年2月中旬
審査委員二次審査	2025年3月上旬
表彰結果発表	2025年3月末
表彰式開催	2025年4月22日

【受賞者様メリット】

受賞者様アンケートから抜粋

- ◆保険会社やお客様、同業他社、取引先からの称賛や取引拡大、新規取引につながった。(同様意見多数)
- ◆人材採用の一環としてFM放送でアワードを受賞したことを放送している。当社のネームバリューアップにつながっているように感じる。
- ◆自分たちがやってきたことが評価されたということが、社内やこれまで協力してきてくれた関係者の自信につながり、前向きになれた。
- ◆近隣ディーラーやディーラーの本社の人たちに自社の取り組みが理解され声掛けをされた。
- ◆自社のブランド力が高まった。
- ◆受賞各社とつながりたい。ディスカッションなどを通して新たな発見や展開につなげたい。

- ◆日刊自動車新聞(本紙・電子版)で受賞の取り組みを紹介(5月特集、5～6月各社紹介連載企画)
- ◆受賞結果を弊社SNSなどで幅広く展開
- ◆2024年は地元紙・テレビ局・ケーブルテレビなど29媒体、11自治体に受賞者情報を発信
- ◆アワード受賞のデータなどを贈呈(店舗やホームページ等でのPR用として)
- ◆受賞事業者には、各社取り組みに対する審査委員コメントを提供

日刊自動車新聞社は2024年度、アワード受賞事業者同士が“つながる場づくり”に向けて動き出しました。受賞対象となった取り組みの進捗報告会やセミナー、情報交換会など、受賞事業者の“集いの場”を作り出し、自動車整備業界の活性化を目指します。